midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム
北相模

８月号の１枚：地球環境部、力を合わせて材を引く

20年目を迎える・・桂川相模川流域協議会

なぜ富士流域桂川相模川サプライチェーンモデル構築に取り組むか

山梨県富士山・山中湖を源流とする「桂川」は、富士吉田市～都留市～大月市～上野原市で県境を越え相模原市緑区藤野町で神奈川県に入り「相模川」となって平塚市・茅ケ崎市での市境で相模湾に流入しており、その距離は131kmです。神奈川県の水源は丹沢水系（神奈川県）にもありますが、県民912万人口の約60%の水源は山梨県の桂川・道志川・相模川系に依存しています。そこで平成10年に山梨県・神奈川県が一体となって「桂川相模川流域協議会」が発足しました。当初は、全国でも珍しい県境を越えた連携として脚光を浴びましたが典型的な山岳地と首都圏都市部の水に対する認識の違いから「水を共に考える」視点の差が生じざるを得ません。当会の森林整備拠点は中流の相模原市緑区・相模湖にある事から上流・下流の思惑の違いがかなり明白にわかるのです。そこで「富士流域（桂川相模川）サプライチェーンモデル構想」を立上げ上流・中流・下流都市部の一体化努力を重ねています。

長野下伊那を源流に岐阜県・愛知県の三河湾に注ぐ矢作川流域は上流・中流・下流都市部が一体となった成功例があります。どのようにしているか調べる準備に入っています。

神奈川県人口912万人（全国2位）、山梨県人口83万人（全国41位）。当然、税収や産業構造なども違います。双方が余程、理解し合わねばなりません。「事・生命に拘る・・・、空気・水・土壌（食料等）」の問題ですから看過できません。

こんなことが出来るのも「NPO法人緑のダム北相模」の皆さんの黙々と真摯な日々の努力があったればこそです。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2016.08

8月 7日（第一日曜日）：
小原本陣の森はフォレストキッズスクール開催のため行いません
知足の森は臨時で第１土曜日に行います。
いずれも弁当持参。参加費：４００円
8月21日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

[定例活動]小原本陣の森・知足の森

7月3日（第一日曜日）

今月の定例活動では、小原の森で活動する森林整備班と知足の森で活動する地球環境部と合同で作業を行いました。午前中は先月の測量中に見つけた倒木の処理をなんとかしようとまずはその地点を目指しました。しかし、普段あまり手が入っていない森なので、そこまで行き着くまでの草刈りから始めました。まだまだ経験不足の中学生も多く、本格的な草刈りは初めてなので、ノコギリを振り回したり、刈り残しがあったり、となかなか前に進みません。そこで活躍したのが高井戸中学卒業生の高校生。先頭を切って草を刈っていき、そのあとを中学生たちがついていくという形に自然になっていました。目的の倒木ポイント、いや境界線に着く頃には多くの生徒がへばり気味でした。先月は測量しながらだったからか、観察が足らず見れば見れほど手に負えない大木。しかも２本。しかもその２本によって倒されているさらに３本。まずは枝を払おうと取りかかるもやはり無理じゃないのかという雰囲気が漂う始末。確かに２本の大木は沢をまたいで倒れていて、一番高い所で沢から４、５mはあろうかというところまでありました。直径も４０センチ近いので、人が乗ってもびくともしません。さすがにこれはプロの手が必要との結論に至り、今回は枝だけ払っておくことにしました。逆に、このような大木をどう処理するのか、生徒たちには勉強になるのだと勝手に前向きに考え、午前の作業はここまでとしました。

午後からは８月に相模原市環境情報センターと共催するフォレストキッズスクールで使用する沢のチェック。ということにして、暑いし沢で遊ぶか、と生徒たちは意気揚々と沢に入ったところ、沢の下流で騒いでいる生徒たちが。どう見てもほ乳類の内蔵と思われる固まりに虫がたかっています。すると今度は上流でまた違った歓声（悲鳴？）が。沢の深くなっているところにイノシシが沈められていたのです。しかも丁寧に名札と連絡先が（イノシシではなく獲った方のもの）。この近辺で仕留めて、中身を取り出し、寄生虫を払ったり、本体そのもののを冷やすために沢に沈めていたようです。何も考えず沢で騒いでいた生徒たちは、自然ではいきなり騒いだり遊んではいけないんだと反省しきり。まだ元気が残っている生徒と卒業生で上流をめざし、ここなら遊べるだろうというスペースを整理してこの日の活動を終えました。知足の森も小原の森も相模湖駅から徒歩圏内にあるにも関わらずこれだけ多彩なフィールド、そこでの出来事があることには毎月驚かされます。毎月毎月生徒たちが夢中で活動に参加してくれるのも分かる気がします。世間ではスマートフォンの画面を見ながら何かを探すゲームが流行っているようですが、森にはどんなアクシデント、出来事が待っているかは分からず、まだ彼らはその対処法や心構えができていませんが、その姿勢が身についたときに今よりももっと森を楽しめる、自分で楽しめる方法を見つけられるのではないかと思っています。そして、そうなるまでは活動を続けていかねばならないと、沢に沈められているイノシシを眺めながら決意を新たにした定例活動になりました。ちなみに生徒たちに森となんとかGOとどちらが面白いか聞いてみた所、「間違いなく森」と答えてくれました。

宮村　連理（本会、副代表理事）

[定例活動]相模湖嵐山の森

7月17日（第三日曜日）

夏の花々が咲き競っている。オオバギボウシ、ノカンゾウ、フジカンゾウ。そして神奈川県の花であるヤマユリが基地周辺のそこかしこに重そうな頭をもたげている。以前は盗掘の憂き目に合っていたヤマユリだが、このところずいぶんと増えたようだ。参加４１名。

この季節、雑草の勢いは凄まじい。スギナ、ツユクサ、クワクサ、ヤブガラシ、ハルジオン、イノコヅチ、イヌワラビ、カヤツリグサ、オオニシキソウなどなど。お花畑班はしばらくこれらのつわものと四

つに取り組まなければならない。しかし、よいこともある。以前に播いておいたヤーコンが大きな葉を広げ、つるなしインゲンがたわわに実っているではないか。収穫は午後に回すとして、まずは草採りと風で倒れたグラジオラスを立て直す作業に取り掛かる。　木工班には加賀谷さんという初参加の女性が加わった。加賀谷さんは金沢美術工芸大学卒。環境デザインが専門とのこと。名前からして石川県出身のように思えるが、実は北海道生まれだそうである。いま働いている都会の緑の少なさにストレスを感じ、ここ嵐山に来たとのこと。濃い緑の中で、今日は桐の下駄づくりに励むよう。川田さん率いる他のメンバーは引き続き柱材のほぞ加工。長谷川大工さんはお休み。

斉藤体験学校長のお顔を見るのは何か月ぶりだろう。しばらくご無沙汰していただけに懐かしい。樹名板用の材選びのため、仲間３名を引き連れての来訪である。樹名板は練馬区にある石神井公園に設置されるらしい。

昼食時、いつものかどや特製スープに加え、森林整備班・石井さんが対岸にある小原本陣の畑で早朝に採ってきたキュウリが振る舞われた。どのキュウリにも立派なトゲトゲが。すなわち新鮮な証拠。乾いた喉をうるおしてくれる。

午後、お花畑班はいよいよインゲンの収穫。短時間で袋一杯ほど採れたものの、どう分けようか？みんなに配るほどはないし。「そうだ、いつもお世話になっているかどやさんに届けよう」とのメンバーの鶴の一声で話は決まり。

若者たちの数はいつになく少ない。フォレストノバは８月１０日に予定されている木工教室用の材選びと製材を行うが、チェーンソーの切れ味が芳しくなく、少し手こずっている様子。地球環境部には森林整備班の小林さんがつき、午前午後で計４本の伐倒。掛かり木の処理や材運び、材の皮むきまで行う活躍ぶりだ。

終礼時、これまた石井さんが採って来てくれた野菜の数々が並ぶことになる。キュウリの他、ニラ、オクラ、ミニトマト、ズッキーニ、インゲン、モロッコインゲン、間引きしたハクサイ等々。これらはもちろん参加者のお土産に。中学生たちも持ち帰っている。これはうれしい。

解散後はお花畑のインゲンを抱えながら大勢でかどや食堂へ。通称「かどや会議」。会議といえば聞こえはよいが、単なる懇親の場、平たくいえば飲み会である。しばしの語らいのさなか、差し上げたはずのインゲンが何と天ぷらに化けてテーブルにのぼってきた。これには皆びっくり。文字通り花も実もある夏の一日となった。

内野　郁夫（本会、理事）

[報告１]
相模湖・若者の森づくりから
～ForesTo Class

本会の特徴のひとつに若者の参加者が多いことがあります。これまえも大学生のグループであるForest Nova、中高生を中心とした地球環境部がありましたが、６月からForest NovaのOBOGが活動を開始しました。本ニュースレターでも「相模湖・若者の森づくりから」のコーナーで連載化してきましたが、今月から各団体ごとに３本立ての連載とすることにしました。

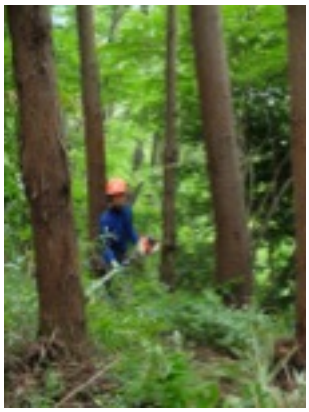
本日は永井さんの森での2回目の活動で、1日通して下刈りを行いました。林内にはシュロが多く入り込んでいますが、もともとこの辺りの森にはないものなのでこちらの伐採も進めています。

永井さんの森の隣は、小原の方達がツツジや桜を植えている畑です。今回私たちが草刈りを行った林縁部には、今度アジサイを植えるそうです。

先月、私たちフォレストノバOB会は、ForesTo Class(読み方はフォレストクラス)と名前を決めました。forestにoを付けたのは、「森(フォレスト)と暮らす」という語感にしたかった為です。また、クラスには、仲間・チームメイトという意味があります。森と暮らすことを考えていく仲間の輪を広げていきたいという気持ちで、この名前にしました。

これから本格的に活動していきますので、よろしくお願い致します。

神宮　理沙（ForesTo Class）



[報告２]
相模湖・若者の森づくりから
～Forest Nova

今年は格別に暑さが厳しいようですが、お元気にお過ごしでしょうか。

今年の七月三日に相模大野のボーノ相模大野で第12回さがみはら環境まつりが開催されました。まず私が感じたことは、環境問題に興味を持って来場してくれた人が多いということでした。昨年、橋本で行ったさがみはら環境まつりでは、会場で配られるスタンプラリーでもらえる景品を求め来場する人もおり、全体的にあまり環境問題に興味がなかったのではなかったのではと感じました。しかしながら、今年の来場者の人たちは意欲的に「どんな活動をしているのですか？」や「この木材は何を使っているの？」など質問をしてくることが多く、強い関心を持っていることが伝わりました。また、会場に相模原市の地域貢献アイドルの方々が来て、環境問題をテーマにした歌を歌ったり、家政大学の方々がリサイクルファッションを作っていたりと見た目にも華やかな展示も見られました。

またForest Nova☆は木材のキーホルダーを作りました。今回キーホルダーに付ける装飾として木の実やモールを準備し、絵を描くためにマッキーを用意していました。でも私は木の実やマッキーを用意したことに少し不安を持っていました。今までこういった木工をやるときに、木の実を木材に付けられるだけ付けてしまったり、マッキーで木の面が見えなくなるまで塗りつぶしてしまったりしてしまう子どもがいたからです。しかし、そんな心配をよそに子どもたちは、素晴らしい作品を作ってくれました。キャラクターの顔を木材に書いたり、木の実とマッキーをうまく使い動物を描いたりしていました。子どもたちはその作品をヒモに結んで大事そうに持って帰ってくれたのでやってよかったなと感じました。

しかし、反省点もありました。準備段階において、連絡不足によってお互いに作業がどこまで進んでいるかなどの現状把握が出来てなかったことや、環境まつりのために作った目的、目標が実際にやったキーホルダー作りとあまり関係してなかったこと、キーホルダー作りと並行して行った相模原クイズが子供にあまり受けなかったことがあげられます。

来年はこの反省を生かしてさらにForest Nova☆の魅力を伝えられたらいいなと思っています。

望月　健一（Forest Nova）

[報告３]

相模湖・若者の森づくりから〜地球環境部

今月の嵐山の活動に参加して高校生の先輩を見て思ったことがいくつかあります。一つ目はとても力があるなと思いました。僕が木を切る途中疲れてしまっても先輩が代わって切ってくれたり、重い丸太を運んでいるとき、手伝ってくれたりしてくれました。他にも自分たちで倒せなかった木をロープで引っぱり軽々と倒してくれることもありました。二つ目はアドバイスや指示がうまいことです。僕が木を切るとき、うまい切り方を教えてくれたり、指示がすごく的確でとても効率がよくなりました。そのようなことがあって、僕は力をつけて次にする行動を頭で考えて行動出来る人になりたいと思っています。

（中学１年生男子）

[連載]

緑のダム、リレーエッセイ

「楽しく、休まず、ボチボチな人々」

こんにちは、相模湖嵐山の森の定例活動に参加している長谷川です。職業は大工です。嫁と娘 3 人の家族 5 人で嵐山のふもとに住んでいます。約 3 年前にここに移住してきてから活動に参加しています。

私は木との関わりの中で、あたりまえの事を少しでも多く知り・伝え・実践して行きたいと思っています。日本の素晴らしい木の文化が消えようとしています。私は大工として木と向き合う事が多いので、話を家造りに 絞ります。数百年前の民家が残っている中、今の住宅の平均寿命は 30 年だそうです。家を造るスピードがどんどん速くなってきました。ひとつの家にかける大工の仕事の量は昔の1 割にも満たないでしょう。今ある日本最古の木造建築物が 1300 年前としてこのたった 40 年でとにかく早く家を造るシステムができました。

早く家を造る事が悪いことでは無いと思います。ただこのシステムの中で日本の家造りの根本が変わってしまいました。家は重力に逆らって建っています。その不安定な状況の中で風が吹き雪が降り地震が起きるのです。地震の多い日本では外から加わる力を分散して逃がしていました。長いホゾ・コミ詮・貫・楔・継ぎ手・仕口といった昔の人達の知恵の塊で材木同士を繋ぎそこで外からの力を逃がします。（この話は言葉では伝えるのが難しいので模型でお話することができます。興味のある方はお気軽に声をかけてください。）

早く家を造る為に今ではこの知恵の塊はすべて金物に変わってしまいました。部分的な強度に頼ることになってしまいました。勿体無いことです。私はあたりまえの事を一つでも多く実践していきたいです。

長谷川　主水（本会、会員）

[報告４] 地球環境部強化合宿を行いました

７月末４日間、山梨県の小菅村にて地球環境部合宿を行いました。写真でご紹介します。

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、第３日曜は自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１８年間、一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636

支援団体：セブン-イレブン記念財団、２２世紀やま・もり再生ネット
賛助団体：北都留森林組合、（株）トレカーサ工事、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所